

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600061		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8番9号		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600061&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホーム いすの木」は 入居者様に楽しんで頂ける様 季節ごとの行事において 春は遠出のドライブ、夏は ご家族と一緒にバーベキューや お祭りの見学・参加、敬老会はホテルで ご家族と一緒に食事会、又、保育園児の来訪やボランティアの導入等を行ない 家族や地域の方との交流をふかめており、一人一人がご自分のペースで 安全に安心し、心豊かに元気で生活して頂き、スタッフ一同 個々の意思・人格を尊重し共に生活して頂ける様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム いすの木」は、近隣に公園や商店、市立病院や保育園などがある幹線道路に面した交通にも便利な場所に位置している。地域交流が活発に行われ、地域のお祭りや盆踊りへの参加、独居の方対象の茶話会に参加したり、近くの看護学校のお祭りや実習生の受け入れなども行われている。ボランティアによる傾聴やゲーム、散歩の同行、近隣の保育園との相互訪問など、地域の一員として日常的に交流が行われている。家族会が設立されており、家族参加の行事も多く、利用者や家族と職員が交流を重ねることで信頼関係も深められているグループホームである。利用開始後も、知人や友人が来訪する頻度も高く、職員は馴染みの人と落ち着いて過ごせるように配慮したり、本人の意向に沿って自宅や馴染みのお店に出かけられるように支援している。各利用者の思いを尊重し、身体機能を可能な限り活かせるように配慮して、車椅子に頼らず自力歩行を介助したり、食事時は車椅子から食卓椅子への移動を行うなど、一人ひとりに配慮したケアを行っている。職員の意見交換も日常的に行われ、より良い運営やケアができるように全職員で日々取り組んでいるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(1F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員数の2/3くらいが 3. 職員数の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念もあり 町内会のお茶会に参加し交流が出来る様支援している	開設当初からの事業所独自の理念に、昨年、全職員で話し合いを行い、「地域の皆さんと共に交流を深め、楽しい毎日を支援致します」という地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を追加し、詰所に掲示している。今後も全職員で理念を再認識し、実践に繋げていく意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のホテル、コンビニエンスストア、薬局等を利用している	町内会に加入し、お祭りや盆踊りに利用者と共に参加している。近隣の看護学校の地域交流会に参加したり、実習生の受け入れも行っている。保育園児が散歩の途中に年間数回立ち寄り、今年は初めて利用者が保育園を訪問するなど、交流が深められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の地域の方々と「認知症について、認知症の方の対応について」の講演会を開催したく計画中です		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議において報告し ご意見を頂いておりサービス向上に努めています	市役所職員、地域包括支援センター職員、町内会役員や住民、民生委員などが参加して、2ヶ月毎に開催している。活動報告の他、外部評価結果報告、避難訓練を実施して反省会を行うなど、参加者から多くの意見が出されている。議題を明示した開催案内、議事録を毎回家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の提出物は 出来るだけ直接お届けし 話を する様にしている	市役所職員が運営推進会議に出席した時に相談したり、生活支援課に生活保護利用者の医療費助成などについて電話や訪問などを通して相談を行っている。市役所とは担当者が代わってもいつでも相談しやすい関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ身体拘束をしない様に 取り組んでいます	法人による「身体拘束等行動制限について取扱い要領」が作成されており、職員は外部研修に参加して研修報告を行っているが、事例検討などの内部研修の充実は今後の課題となっている。危険防止のため、家族の同意を得て書類を作成し、現在ベッド柵を使用している利用者もいる。	事例に基づいた内部研修の充実を図り、ケアの向上に更に活かされるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にも出席しており 虐待のないケアをしています		

ふれあいの里 グループホーム いすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度において 学んではいるが成年後見制度を活用する機会は、現在ありません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には 必ず契約事項を全て読み上げ 補足の説明をし質問を頂き了解を得ています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会において 家族からのご意見を頂き より良い施設作りに努力している	法人によるアンケートを毎年実施している。家族会もあり、事業所の行事に参加した時や来訪時に意見や要望を聞き、運営に役立てるように取り組んでいる。家族からの意見や要望は、連絡ノートに記録したり申し送り時に連絡して内容を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期にミーティングを実施しており、日常も色々な意見や提案を聞き実施している	管理者は、毎月のミーティングをはじめ、利用者のケアや業務に関して日常的に意見交換を行い、職員の提案を運営に活かしている。各行事の内容は職員が交代で考えて実施している。今年度からは各職員と個別面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	金銭的には厳しいが、予算範囲内での研修には援助がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修会の参加、スタッフミーティング等により、技術・対応術等の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市の開催している研修会等に参加し学習している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談で、本人からも聞き取りをし 援助内容等を説明している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で、家族から聞き取りをし 援助内容等を説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談で グループホームにて生活全般においての支援と他のサービス利用が自費になることを説明している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを基本に 本人のペースで個々に合わせて支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活の様子を伝えており 本人の状態を理解していただき協力を得ている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の知人や友達が来設されることもあり、又住んでいた家にお連れしたりしている	習い事の生徒や近隣に住んでいた人、利用開始前の施設職員など、馴染みの人が訪ねて来る利用者も多く、来訪時はリビングなどでお茶を提供してゆっくり過ごせるように配慮している。自宅や馴染みのお店に買い物に出かけるなど、馴染みの場所との関係も途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	マイペースの方も居られますが、いつも一緒に過ごしていたり、他者のお世話を下さり 共同生活は良好です		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各々の家族に依り 関係が継続している所もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を聞き取りしており 表現出来ない方は 様子からくみ取り把握している	利用開始時に家族や本人と面談を行い、「情報収集シート」に記録したり、定期的にあセスメント(評価)補助シートを利用して、本人の意向や現状把握に努めている。また、利用者の動きや表情、簡単な質問形式で本人の思いを把握するように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはアセスメントをしており 入居後も談話の中で話しを聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の行動や会話等の記録をしており スタッフ全員で把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成し 毎月モニタリングをし、3ヶ月毎に家族に説明しており、又 ケアプランの変更は随時行ない 家族に説明している	新規利用者の介護計画は1ヶ月後に見直しを行っている。定期的な見直しは、計画作成担当者が各職員の意見を反映して計画を作成し、全員で検討を行い3ヶ月毎に作成している。計画作成後家族に説明し、家族の意向に沿って変更などを行い確認印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメント表や連絡帳にその都度記入しスタッフ間で共有しており、ケアプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームにて 生活全般に支援しており、受診等家族の状況に応じ協力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会やボランティアの協力を得て お祭りや外出等の行事に参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科・皮膚科の訪問診療や訪問看護をうけている	家族の協力の下、本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診を継続したり、定期的に訪問診療を受けている。受診時に介護情報を提供したり、直接医師と連絡を取り、適切な医療を受けられるように配慮している。受診結果は経過記録に個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護時は本人の状況を報告し 指示やアドバイスを頂いている 又 突発的な時には 電話にて相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護情報提供をしており 医者よりの状況説明においても立会いをさせて頂いている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における指針を 入居契約時に説明しており その都度 話し合い対応している	法人として「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用開始時に説明を行っている。往診や訪問看護の利用で看取りも可能であり、体調変化に応じて、医師、家族、事業所間で対応を話し合い、看取りに関する書類を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが初期対応は、事故発生時にはマニュアルに添って対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員や町内会の方、家族の方々の参加にて年2回 避難訓練を実施している	消防署の協力の下、年間2回、運営推進会議時に参加者と共に夜間を想定した火災避難訓練を行い、地域住民の役割分担確認も行われている。火災以外の、地域全体の災害時の避難方法は今後の課題となっている。災害備蓄品の整備、職員の救急救命訓練の定期的な受講は現在検討中である。	火災以外の災害時の対応や避難方法について、全職員で再確認が行われるように期待したい。また、災害備蓄品の早期整備と各職員の救急救命訓練の定期受講を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつも安心して生活して頂ける様な言葉かけをしています	本人から愛称で呼んでほしい旨の希望を受けた場合は家族に了解も得ている。言葉かけでは、言われて嫌だと思ふ本人の気持ちを思いやったり、職員の言動について喚起する標語(言葉集)をスタッフルームに掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で 望みを聞いたり くみ取ったりしており、意思の自己決定出来る様声掛けしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活されており その日に希望があれば、買い物、外出、出来るだけ添える様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて日常の服装に注意しており、外出時や行事には 個々に合わせて支援している		

ふれあいの里 グループホーム いすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事においては 肉が嫌いな方には魚で対応しており、準備や片付けにおいては 出来る範囲のお手伝いを頂いている	運営法人の管理栄養士が作成した献立を用いている。給食会議で利用者と職員の希望を出し、メニューに反映させたり、誕生会では本人の好きなものを提供している。畑の収穫物を食卓にのせたり、ホテルでランチを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々に合わせており、毎日 食事・水分量のチェックをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後は個々に行ない 朝夕は全員声掛けや介助にて行ない、夜間は義歯の洗浄剤につけ置きし預りしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況に合わせて 日中はトイレ誘導し夜間はオムツ交換をしている	オムツからリハビリパンツなどへと用品類をできるだけ軽減し、本人がトイレで気持ち良く排泄できるようにトイレへの声かけ誘導を行っている。利用開始後に布パンツに移行した利用者もいる。随時、清拭やボトルシャワーを行い、皮膚が爛れないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認の必要な方はチェックしており、その方に合わせて水分や下剤調節をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回 本人に合わせて入浴して頂いています	日曜日以外の午後の時間帯で入浴を対応し、身体の重度化の利用者も職員2名介助の体制を取り、湯船に浸かっている。拒否の場合は、入る順番や時間、日にちをずらし、無理強いとしないようにしている。同性介助の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	絶対的な就寝時間の決まりはなく 一人一人のペースにて過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が 配薬に携わっており 大体の病名にかかわる薬において認識している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせ 掃除・洗濯物・配膳のお手伝いや体操・歌・ゲーム等を一緒に行なっている		

ふれあいの里 グループホーム いすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があったり 誘ったりし戸外に出たり、行事での外出でボランティアや家族のサポートでドライブやホテルでの食事会を行なっている	天然温泉やレストランでの昼食、花見、紅葉見学などの行事的外出の他、個別外出での買物支援を行っている。夏場は毎日のように散歩に出かける利用者もいるが、重度化の利用者も多く外出は減少の傾向にある。その場合でも外気浴や室内にパイナップルやビワなどの植物を置いて楽しめる環境を整えるなど配慮をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方の対応にて 自己管理が出来る方は所持しており 買い物時ご自分で支払いされ 見守りしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは随時しており、手紙を書いている方は 住所の確認をし投函させて頂いている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じ ホール内の飾りつけを換え 季節を感じて頂ける様工夫している	対面式キッチンとダイニングが繋がった空間の他、独立した居間、和室もあり、利用者が思い思いの場所で過ごせる空間が確保されている。回廊の要素には一休みできる椅子を配置し、トイレは身体機能に応じた仕様を施し、利用者が分かりやすいよう場所表示の工夫をしている。温かみのある絵画や植物を飾ったり、季節感ある掲示をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・食堂・談話室にて 一人で過ごされたり、他者と一緒に過ごされることもあり その方らしく過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に 本人が使い慣れた物や好みの物を持ち込みして頂いているので 居心地よく過ごされていると思います	居室入口には思い出の写真や職員手作りのネーム板などを掲げて、自室と分かるよう温かみのある飾り付けがなされている。ミニ応接セットやテレビ、供養するための品々なども持ち込まれていたり、居室で毎日、新聞購読をしている利用者もいるなど、利用者の個性を大切に設えをサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は好きに過ごして頂いており「できること」「わかること」の把握をしており 危険性がある時は目配り・気配りをしている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600061		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8番9号		
自己評価作成日	平成23年10月6日	評価結果市町村受理日	平成24年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人一人の思いを大切に健康で楽しい生活をしている、日々の生活は、家庭菜園をつくったり、職員とも仲良く話したり近くの店にお買い物に行ったり、家事を共にしたり、外食を楽しんだり、職員、入居者が仲良く過ごしている</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600061&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、全職員で話し合い理念を追加した		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おまつりへの参加、保育園児、ボランティアの方の訪問地域の方との茶話会などで交流、運営推進会議に出席していただき交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会や、様々な所にパンフレットを置かしていただいている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での活動状況などの報告		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしないため、見守りを常にしている センサーにて、きずく様にしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	感集会への参加、GH内での勉強会		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用すべき入居者が居ないため活用されていない			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いる、疑問などは、その都度答えられる事は答えその場で困難な事は後日検討し答えている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議で、家族の意見をきいている 他来設時何か意見があれば聞いている			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議、日常時、意見、提案を聞いている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消に努め、向上が図れるように研修参加を促し、また、待遇面でも改善に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に見合った研修を受けさせるようにしている。市内にある同一法人の事業所と合同で研修会を企画し実施している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、親睦会などへ参加させ交流できるように努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前入居時、本人の話を聞き施設の説明をしたり本人が望む事を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前入居時、家族の話を聞き施設の説明をしたり家族の望む事を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、リネン交換、日常の家事、ごみ投げ、園芸作業など職員と共に行う		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と十分に話し合い本人を支えるようにしている。家族の面会の少ない入居者は、書面で家族に様子を知らせたり、電話で話したりしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と、なじみの店に行ったり、居室になじみの物を置いたりしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流できるようにリビングでテレビを見たり、散歩に出かけたり、園芸活動をしたり、日常の家事をみんなで行うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、相談に乗ったりし努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、本人から話を聞く		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中からきずけるように、毎日状態を観察し、日々話しをする		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議、日々の話し合いの中で意見交換をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、アセスメント、連絡ノートの記録		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化などに合わせ訪問看護、往診などを外部のサービスの利用、ボランティアの利用などに勤めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と共に受診したり、状態を書面で知らせたり、適切な医療が受けられるようにしえんしている、又受診困難な場合は、往診などで対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のワーカー、看護師、医者、などと話し合いその人にあつた行き先、GHでの過ごし方をしえんしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と充分話し合い家族、本人が望む終末などを話し合っている、GHで支援出来る事など話し合いまた急変した時のことも話あっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に着けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などに地域の参加をお願いしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けに充分注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりとはなしあっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにあわせた生活に配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の床屋での散髪や、朝着替えの時のアドバイスなど本人と話し合い支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と食事の下準備、かたづけをししたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事の形態、量にして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分でできるように声掛けをしたり、介助したりして支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく紙パンツなどを使用しないようにトイレ介助をしたり、声掛けをしたりしている。紙パンツの人もなるべくトイレに行くようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	とりくんでいる(水分、運動)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にあわせた入浴の方法、タイミング体調に合わせている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸作業をしたり買い物にでかけたり、散歩、ドライブなどにでかけたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候、気温などを見てなるべく出かけるようにしている			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの店や、GHIにみるパン屋さんで、使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、リビングの花や植木鉢をおいたり、写真を飾ったりしている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂などで思い思いの過ごし方が出来る様にしている(いす、座布団など)			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの力に合わせた活動を、日々の中に取り入れている、たとえば、這って移動したい人は周りに危険がないように環境を整えてある			

目標達成計画

事業所名 グループホーム いすの木

作成日: 平成 23年 11月 4日

市町村受理日: 平成 24年 1月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践 ・研修を実施していなかった。	内部研修の充実を図る。	身体拘束における メリット・デメリットを話し合う。 拘束をしないケアを検討する。	3ヶ月
2	35	災害対策で火災以外の対応と避難方法と備蓄品の整備。 職員の救急救命の訓練の実施。	備蓄品の整備をする。 救急救命の講習を受ける。	備蓄品の内容の検討をする。 講習を実施する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。